



# 愛知陸協広報

第25号

平成24年3月31日発行

愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目19番16号千代田ビル7F

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

e-mail ark@marble.ocn.ne.jp

ホームページ: url http://www.aichi-rk.jp/

## 今年も大活躍 愛知の駅伝チーム

12/25 全国高校女子駅伝優勝

1/22 全国都道府県男子駅伝5位

豊川高  
王座返り咲き3度目の優勝



食い下がり5位



3年連続入賞

1/15 全国都道府県女子駅伝6位

12/18 全国中学校駅伝8位 石巻中

12/25 全国高校男子駅伝6位 豊川工業

12/18 全日本実業団女子駅伝5位 デンソー

1/1 全日本実業団駅伝4位 (大会新) トヨタ自動車

12/18 全日本マスターズ駅伝 男子2位 女子4位

(写真提供: 中日新聞)



### 1年を振り返って

副会長 村瀬雄一郎

私は高橋公一前会長から愛知国体の前年に財務委員長をおおせつかり、陸協の財政基盤の一助になるよう報道各社、企業に協力を依頼し、多少なりとも貢献できたのではないかと考えていました。

しかし、昨年4月唐突に副会長を受けてほしいとの連絡を受け、真に青天の霹靂でした。果たしてこの大役が務まるかどうか迷いましたが、私が少年時代から長い間陸上競技と共に歩んできたことを考え、少しでも恩返ししようとお引き受けしました。この一年、多くの皆様のご協力やお力添えをいただいで無事終えることができました。

事務局へ伺うことが多くなり、毎週のように開催される大会、冬には駅伝、マラソン大会の準備、運営に万全を期し、外山理事長、稲垣副理事長を中心に多くの仕事をこなしている様子を拝見し、頭の下がる思いです。役員各位のご努力に、心より感謝を申し上げます。

本年は、大規模なウィメンズマラソンをはじめ全国規模の大会が予定されています。まだ現役でお仕事を持っておられる方々が寸暇をさいて陸協を支えておられますが、どうかよろしくごお願い申し上げます。また、愛知県から日本を代表する選手が多く輩出されることを願っています。

いよいよ、新年度より愛知陸協は一般財団法人に生まれ変わります。組織は多少姿を変えますが、各大会の運営は従来どおり進めていくこととなります。お気付きのことがありましたら、ご遠慮なくお申し出ください。

皆さんの変わらぬご支援をお願いし、ご挨拶とします。

## 支 部 報 告

## 名古屋支部

今回の名古屋支部は、知多地区の元気な現況をお知らせします。

ご存知のように、温暖な知多地区は以前から数多くのスポーツが盛んに行なわれてきた土地柄です。とりわけ私たちの陸上競技は運動会の延長線上にあって、昭和20年代から中学校を中心に隆盛を極めてきました。それは、県中学総体の総合優勝を重ねた幾多の学校の姿に見て取れます。これは一心不乱に頑張った生徒たちの力でもあり、それを指導し支え続けた先生方という、双方の努力の賜物でもあります。

そして、その脈々たる伝統は今に続いています。近年では県下各地と同じように、小学生のクラブチームがこの知多地区でも数多く誕生し、低学年から高学年に至る過程で競技の基礎作りに励み、毎年全国大会等で優秀な成績を取っています。こうした小学生のレベルアップもあり、進学した中学校でも更なる競技力の向上が学校全体で図られ、ここでも全国大会等数多くの大会で優秀な成績を取めるに至っています。

こうした活況には、知多地区全域で小中学校の連携を目的とした指導者協議会の存在を外しては語れません。この協議会では、学校だけでなく地域クラブの指導者を含めた組織の中で、冬の合同練習会に始まり、競技会シーズンには大会の審判等で子供を見守るといった、一年を通して児童生徒の総合的な人間づくりの中で競技レベルの向上を図っています。そして、秋の納会での小中学生の顕彰が、その存在価値を強く示しています。

これからも知多地区では、今までの結果に満足することなく、小中学校連携から一歩進めた小学校から高校までの連携、更にはその先の大人の競技力向上を見据えた長期育成プログラムをもって指導者の交流、児童生徒の交流等の計画を進める予定です。(植田 准次)

## 尾張支部

## 平成23年度の報告と課題

平成23年度の支部事業は、1月22日(日)の第59回尾張駅伝競走大会で幕を閉じた。3月18日(日)の支部総会において年度の総括を行なった。

本年度は各競技会とも参加者が増加し、盛況であった。また中学・高校生の競技者登録数ならびに一般競技者登録数、審判員登録数が例年に比して、増加した。一番大きな理由は、やはり競技場施設の充実である。愛知県の施設という性格もあって、今日の財政状況の厳しさの中、設備・備品の整備拡充の歩みは遅々としたものである。そのような状況にあっても前号の支部報告で既報のハンマーサークルの整備は、シーズン後半ではあったが次年度に期待をふくらませるものである。関係者のご尽力に感謝したい。

一方競技会での写判装置のトラブルが相次いだ。予期しない機械的なトラブルや電気系統のトラブルは、門外漢の審判員にとっても新たな研修機会を得たものと前向きにとらえている。このような事例も審判技術の向上につなげていきたい。また設備・備品関係の問題においては、使い勝

手や消耗の度合いがまちまちである。加えてメーカーの違うものと同じレースに使わざるを得ないなど、競技運営上の問題も出てきている。施設用器具委員会を中心に競技場スタッフと積極的に話し合い、工夫をほどこして競技会に支障のないような備えをしていかなければならない。関係者も含め、改めてご支援ご協力をお願いしたい。

支部への要望事項として高まりを感じるのは、小中学生の競技力向上への保護者や関係者の思いである。特に一宮・旧尾西地区は競技場の地元であり小中学校の競技場の利用度が高いわけであるが、皮肉なことに陸上部を持つ学校が極端に少ないのが現状だ。指導者の中には陸上の経験者、指導に長けた先生方も多いと聞く。陸上を愛し、『競技に打ち込みたい、参加したい』という子供たちの思いに答える方策を、何とか知恵を絞って講じなくてはならない。その任に当たるべきクラブ組織の設置は、東三河、西三河、名古屋に比べても極端に少ないのが現状だ。支部として今後のジュニアの育成を見据えた練習会やクリニックの開催またバックアップ、そしてクラブ組織立ち上げへのサポート等大きな課題としてとらえて、実現を図りたい。子供たちの陸上にかかる夢の実現に向けて是非関係者の忌憚のないご意見や積極的なご批判を仰ぎたい。

支部の事業が少しでも役立つことが、私たちの願いである。

(原川 豪)

## 西三河支部

愛知陸上競技協会は、3月より一般財団法人としてスタートしました。それに伴って以前の四支部は愛知陸協の下部組織では無くなりますので、独立した団体として同時スタートすべき準備をしてきました。

団体名を西三河陸上競技協会に名称変更し、県の定款に準じて規約の大幅な改正、役員の仕事の重複を極力避けるなど、組織の整理統合分担化することでより機能的・実働的な組織編成となります。本支部が将来的に今以上に円滑に運営ができ、より多くの方のご協力をいただけるようになれば幸いです。正式には年度末に実施予定の理事会・総会を経て4月より、新たにスタートします。

今年度も、過密な大会スケジュールを多くの審判員の方のご協力でごなすことができましたことを感謝します。本年度からスタートしたマラソンフェスティバルの役員編成では、この地区の審判員が全体の1/3を占めるほどご協力くださいました。

県下の大会では、本支部の審判員の協力無しでは運営できません。酷暑厳寒の中協力いただいていることで、この本支部の審判員の質の向上にもつながっていると思っています。今後ともご協力よろしくお願いします。

本年度後半も、前期同様各競技会で活躍してくれました。全国大会での活躍を以下に掲げます。

## 山口国体

成年男子	棒高跳	4位	山本 聖途 (中京大・岡崎城西高卒)
少年男子共通	800m	3位	新橋 基功 (岡崎城西高)
女子B	走幅跳	6位	石原 薫子 (岡崎城西高)

## 日本ジュニア

走高跳 5位 川端 哲矢 (岡崎城西高)

## 日本ユース

走幅跳 2位 二宮 聡史 (岡崎北高)

走高跳 3位 杉浦 澄美 (岡崎城西高)

## クラブ紹介⑱ なごや陸上クラブ

1 《平成23年8月》クラブ発足から9年目の夏 全国小学生大会に3人出場……2人入賞 全国中学校大会に3人出場……2人入賞 インターハイにOB・OGが3人出場

《平成23年12月》愛知駅伝に現役・OB・OGが正選手・補欠合わせて6人出場 1～5回で22人出場

2 《発足の経緯》ふれあい陸上教室に参加していた教室生の父母から「教室で練習するだけでは物足りない 愛知県大会などに出場して力を試したい」との要望が高まり、その声を受けて発足

3 《大目標》

一人でも多くの小中学生に陸上競技の機会を……

一人でも多くの小中学生に一枚の賞状を……

4 《努力を讃えて 5種類のごほうび》

①拍手で賞讃と激励=大会・活動日ごとに 自己新記録記録者・入賞者・上級大会出場者に

②自己新記録賞=一番うれしい自己新記録に授与

③1000m記録賞=1～10級の合格者に授与

④クラブ新記録賞=クラブ新記録樹立者に授与

⑤最優秀クラブ員賞=年間に大活躍の男女各一人に授与

5 《リーダー力を高めるため 12の班でリードの経験》

生まれ月毎に異学年で12の班を編成【あいさつ→ジョグ→ウォームアップ・基礎基本のドリルの約30分間のセット】を1～12班が1か月毎にリードの経験をする→学校の夏休み短期部活などでリーダーとして行動できるまでに成長

6 《運営の主体……父母の会》

①大会の申し込み受け付け・参加料の集金・大会事務局への送金・一覧表の送付・タイムテーブルのダウンロード・大会当日の団体受け付け・控え場所の設置・オーダー用紙の提出・横断幕掲出・選手ホールへの引率など

②重要事項の話し合い・加入希望者への説明など

③練習会の用器具の運搬・準備、砂場準備など

④クラブ費の経理全般

⑤ユニフォーム・ナンバーカードの発注、交付

⑥看護師資格を持つ父母による傷害の応急手当て



7 《活動回数》 毎週 小学生…1回 中学生…2回

8 《コーチ……18人》 OB・OGコーチ 2人 父母・元父母コーチ 13人 協力コーチ 3人

9 《多くの方々にご協力をいただき ありがとう》

①「週1～2回の練習では物足りない もっと練習したい」希望者を部活留学に受け入れていただいた7中学校・10高校の先生と部員の皆さん

②競技役員として 大会の運営にご協力いただいている10人の公認審判員の皆さん

(協力コーチ 村上 叡治)

### ジュニアオリンピック

男子 A 走高跳 8位 水谷 来(朝日丘中)

女子 A 200m 7位 伊藤 南侑(とよたAC)

走高跳 5位 松井 紗希(鶴城中)

C 走幅跳 4位 明星 光(とよたAC)

共通 4×100mR 2位 伊藤 南侑(とよたAC)

河合 詩菜(安祥中)

(柴田 和秀)

### 東三河支部

23年度を振り返って

今年も東三河支部にとって、とても充実した1年でした。そこで、私の独断で今年の10大ニュースを作ってみました。

☆第1位 豊川高校が高校駅伝女子2年ぶり3回目の優勝

5年連続5回目の出場を果たした豊川高校は、昨年3連覇を阻まれた悔しさをばねに、この1年チーム一丸となり、優勝だけを目指してそれを実現することができました。特筆すべきは、23回の大会で初めての区間賞なしでの優勝です。これは、選手一人一人が持てる力をこの大会で出し切れたということです。来年は、まだどの高校も実現していない4回目の優勝を目指して頑張ってくれるものと思います。

☆第2位 高校総体での大活躍

8月3日～7日に、北上市で行なわれた全国高校総体には、4校から18名の選手が出場しました。そして、女子3000mでワイナイナ・ムルギ(豊川)の優勝をはじめ、男子5000mWで杵名貴輝(豊川工)が2位、5000mでは

カレミ・ズク(豊川)が3位、小山裕太(豊川工)が7位、1500mでも小山裕太が6位、走幅跳では鈴木舜也(成章)が6位に入賞するなど、大活躍でした。

☆第3位 中学総体での大活躍

8月20日～22日に、奈良市で行なわれた全日本中学校選手権には、7校から7名の選手が出場しました。そして、男子800mで野津亮祐(青陵)が4位、走高跳で伊藤裕也(豊川東部)が4位に入賞しました。

☆第4位 豊川工業が高校駅伝男子に14年連続出場し、6位入賞

☆第5位 トヨタの全日本実業団駅伝連覇ならず

☆第6位 石巻中が全国中学駅伝に2年連続8回目の出場で8位入賞

☆第7位 萩原加奈子(豊橋南高)が日本ユース選手権女子100mHで優勝

☆第8位 米重美紅(豊橋陸上ク)が全国小学生陸上競技交流大会5年女子100mで優勝

☆第9位 豊橋市が愛知県市町村対抗駅伝3年連続優勝

☆第10位 H25全日中強化事業スタート



12月10日豊橋陸上競技場にて

(兵藤 重二)

## 専門委員会報告

### 総務委員会

#### 登録について

2012年度より、中学・高校も登録がWeb化されます。登録方法が大きく変更されますのでご注意ください(大学生は除く)。

公認の陸上競技会等に審判員・競技者として参加するには、愛知陸協に登録し、日本陸連の登録会員になることが必要です。登録は、毎年更新するものであり、有効期間は毎年4月1日より翌年3月31日までです。愛知陸協に登録された競技者・審判員は、愛知陸協が日本陸上競技連盟に会員として申請して初めてその資格を得るものです。

登録に関して、例年と若干内容が変わっております。愛知陸協発行の「登録要項」・ホームページを参照し、手続きを早めにすませてください。不明な点は、愛知陸協事務局(052-249-4363)までご連絡ください。なお、年度の登録申請手続きは、2012年3月1日より11月30日(高校は10月31日)までに終了してください。登録申請先及び連絡先は、下記の担当者までお願いします。ただし、転勤等により新年度の担当者の所属が変わる場合があります。

#### 一般団体登録及び個人登録

名古屋	水野 隆夫	自宅
尾張	原川 豪	自宅
西三河	山村 晃泰	刈谷高等学校
東三河	山本 誠司	蒲郡東高等学校

#### 高校生登録

名古屋北	新美 準人	菊華高等学校
名古屋南	小田垣充雅	名女大学高等学校
尾張	宮本 智	尾北高等学校
知多	成田 稔	東海南高等学校
西三河	阿部 直紀	三好高等学校
東三河	加子 勇	時習館高等学校

#### 大学生登録

全 県	愛知陸上競技協会	052-249-4363
-----	----------	--------------

#### 中学生登録

名古屋	森 剛人	日進東中学校
尾張	長瀬 基延	宮田中学校
西三河	細井 太郎	城南小学校
東三河	横内 隆之	石巻中学校

#### 小学生友の会登録

名古屋	石田 伸	東浦藤江小学校
尾張	西村 嘉二	木曾川東小学校
西三河	岩瀬 吉孝	平坂中学校
東三河	手嶋 修次	蒲郡市民体育センター

(稲垣 裕)

### 競技・情報処理委員会

今年度も本委員会の業務にご理解とご協力をいただきありがとうございました。この原稿を書いている2月中旬現在、競歩競技会、読売犬山ハーフマラソン、名古屋ウィメンズマラソンの3大会を残すのみとなりました。

このなかで、名古屋ウィメンズマラソンは世界最大の女性のみのフルマラソン大会となります。先日参加した日本

陸連の伝達講習会でも、最近のランニングブームのことが取り上げられていました。今年の名古屋マラソンフェスティバル(ウィメンズとシティを合わせる)だけでも3万人をこえる参加者がいます。これらのランニング愛好者を何らかの形で陸協の他の主催大会などに参加してもらうようなことができると、陸上競技のすそ野が広がり、社会的な注目度も高まります。このためには、登録の方法や大会申込の方法など解決すべき問題は多く、また練習会の開催など、一般のランニング愛好者の要望に応えることも必要です。来年度に向けての検討課題の1つになると思います。また今年の名古屋ウィメンズマラソンは、ロンドンオリンピックの最終選考会ということもあり、競技・情報処理委員会でも、エリートの部参加選手の資格審査やナンバリング、競技注意事項の検討などの作業を慎重に行なってきました。好記録が出る新コースがロンドンへの道になることを期待しながら準備を進めています。

来年度に向けて、愛知陸協主催の大会においては、2年後の新ルール導入に向けて、原則としてスタートの合図を英語にすることにします。これにより、選手と審判が新ルールに適応しやすいように準備をしていきたいと思っています。また、大会の申し込みをできるだけweb形式にしていきます。手書きによる申し込みの煩雑さやミスを防ぎ、プログラム編集作業の効率化を図りたいと思っています。

来年度も競技・情報処理委員会へのご理解とご協力をよろしく願います。(安田 純久)

### 施設・用器具委員会

「マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知2012」に向け本委員会では、新コースの図面作成とコース点検から入りました。昨年8月にコース上に各ポイントがわかるようにペイントしましたが、全て消すように名古屋から直前に指導が入りました。関係者に急遽作業をしていただきました。色々トラブルを解決しながら、新しいことを立ち上げる生みの苦しみを味わいました。

また、2012年度のトラックシーズンに向けて、担当者を中心に各陸上競技場の施設用器具等の点検をお願いします。

I. 日本陸連主催「全国技術役員研修会」が2月11・12日に開催され、桑原・平川技術役員が参加しました。以下のように2011年度の変更点が確認されました。

- (1)「第1種・第2種公認陸上競技場の基本仕様の改正」の主なもの
  - ①直走路のスタートライン付近、跳躍場の踏み切り付近、やり投助走路のスターティングライン付近の全天候舗装の厚さは18mm以上とした。
  - ②新設第2種、既設第2種の扇形の投てきエリアを基本に芝生に投げるサークルを作ることができるとした。
  - ③補助競技場の主競技場と同一とするものに「表面仕上げ」を追加した。
- (2)「公認陸上競技場及び長距離競走路規程の修正」の主なもの
  - ①第3種直走路を8レーンとした。
  - ②障害物競走の水濠はレーンの内側も可とした。
- (3)「陸上競技場公認に関する細則」の改正の主なもの
  - ①用器具に「大会運営上必要な用器具」について明文化した。

## 学校紹介⑮ 石巻中学校 全国中学駅伝男子8位入賞

今回は、12月に山口県で行なわれた全国中学駅伝(男子の部)で8位に入賞した豊橋市の石巻中学校を訪ねました。石巻中は、2年連続8回目の出場で念願の入賞を果たした勢いのある学校です。

顧問の先生にお会いしようとグラウンドに近づいた時、目を疑うことが一つありました。それは、グラウンドにバックネットがないことです。私が勤める一宮市内で陸上部があるのは1校だけで、尾張部の中学校にはほとんど陸上部がありません。しかし、野球部がない学校は聞いたことがありません。そんな驚きを、同行して下さった横田さんにぶつけてみると、豊橋市内では野球部かサッカー部のどちらか一方がない学校がほとんどだということでした。グラウンドはあまり広くはありませんが、これなら陸上部が広く使えるのだらうと思いついてみると、サッカーゴールも見当たりません。顧問の横内隆之先生にお聞きしてみると、確かにサッカー部もないとのことでした。それなら、運動能力の高い生徒がたくさん陸上部に集まるのだらう、これが強さの最大要因だらうと思いましたが、この思いは間違っていました。横内先生のお話では、運動能力の高い生徒ばかりが入部してくるのではないとのことでした。それに各学年とも男女あわせて15名ほどの部員数で、多くはないとのことでした。それでも全国大会で入賞するのですから、強さを生み出す理由が必ずあるはずだと思い取材を続けました。第1、第2と順番をつけられるものではありませんが、取材で得られた内容を4点ご報告します。

一つめは、練習の時間帯です。私が訪問したのは土曜日に到着したのが7時40分ごろでしたが、長距離陣の練習は既に本練習に入っていました。横内先生によれば、休日でも普段と同じリズムで生活させるため、平日の早朝練習と同じ時間帯に練習を開始しているとのことでした。中学生段階では「自律」が自分のものになっている生徒はそう多くはないでしょうから、一定のリズムで生活を送らせることがトレーニングの成果を定着させる大きな要因になっているのでしょう。長距離走者にとっては距離を踏むことが大切ですから、早朝練習それ自体が成果をあげさせているとも言えるのですが、早朝練習について横内先生は、家庭の協力があってこそ有り難いことだとおっしゃっていました。また、長距離を希望の部員も多いので、中には自分でおにぎりを作って早朝練習に臨む生徒もいるとのことでした。運動能力よりも、部員一人一人の意気込み、努力、人間性といったものが記録を押し上げていくということなのでしょう。



仲良く補強

二つめは、練習中に感じられた和気あいあいとした雰囲気です。これは、私の主観的な思いとばかりも言えないものです。各学年とも15名程度というわりには活動している人数が多かったため、横内先生にお尋ねしてみると、卒業生が数名、高校受験を控えた3年生が数名練習に参加しているとのことでした。休日ということもあって、指導する側に大学を卒業したばかりのOBや退職された元顧問の先生が加わっていたことなど、石巻中の陸上部にしっかりと縦のつながりがあることを表していると思えました。縦のつながりがあるということはまた、在学中にしっかりと横のつながりができていたからだとも思いました。横内先生ともうお一人の顧問の花野望先生が力を合わせて、和気あいあいとした雰囲気の中、充実した練習が行なわれているという印象を強く受けました。また落ち着いた雰囲気の中で練習できているので、学校全体の様子をお尋ねしてみると、校内に荒れた雰囲気は皆無だとのことでした。学校全体の落ち着きも、間接的に陸上部の成績を押し上げているのでしょう。

三つめは、石巻中学校を支えている外部要因です。その一つは、高校生から受ける刺激です。東三河には、豊川工業高校、豊川高校といった強豪校があり、時折こうした学校の練習に参加させてもらうことで非常に大きな刺激を受けているのだそうです。練習内容ばかりでなく、陸上競技に取り組む姿勢や心構えといったものにおいても影響を受けているとのことでした。県の一番手、二番手といった高校の選手から受ける刺激が、石巻中を高いレベルに引き上げていることは間違いありません。もう一つは、近くのゴルフ場が練習場所を提供してくれていることです。時折、長くゆるやかな傾斜を十分に生かして練習ができるのです。芝のコースですから、ここはまた全国大会のクロスカントリーコースに対応した練習場所にもなっています。好条件の練習場所があることは、大きな強みです。

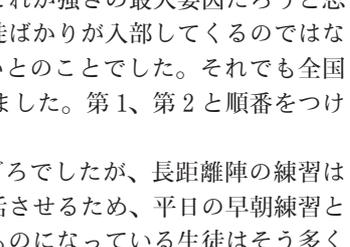
四つめは、横内先生の指導方針、指導内容です。お話の中に、陸上部に入った動機や意気込みにはばらつきがある一方で、一人一人の光るところを見いだすつもりで生徒を見ているという言葉がありました。また、リラックスした雰囲気を大事にしたいという言葉もありました。先生の暖かな眼差しが生徒から力を引き出しているのでしょう。また、横内先生は技術的な指導においても確たるものをお持ちのように思われました。私の目を引いたのは、走り過ぎる生徒たちの地面に対する軸がそろっていたことです。先生は、「3年生はもっとそろっていましたよ。走り込む中で自然と身に付いていきます」とおっしゃいましたが、パワーポジションや接地のことなど、幅広くお話をうかがうことができました。

毎年生徒は代わっていきますが、顧問の先生を中心とした指導者と生徒のタッグで、石巻中が来シーズンも愛知の牽引役になってくれるものと期待できる取材となりました。

(取材・文責 大西敏功 写真 横田小百合)



7:40 既に本練習



そろった軸

②やり投助走路の名称変更(スターティングライン)と規格を明文化した。

## II. 検定報告

- ①白谷海浜公園第4種陸上競技場検定合格  
1月22日実施(青木検定員・平川技術役員)
- ②知多運動公園第2種陸上競技場検定  
3月16・17日(陸連本部鈴木検定員・青木検定員・平川技術役員)
- ③豊川新設第3種陸上競技場検定  
3月19・20日(陸連本部大島検定員・青木検定員・平川技術役員)
- ④知多ハーフマラソンコース検定  
3月23日(飯島検定員・青木検定員・桑原技術役員・平川技術役員) (青木 実)

## 審判委員会

平成23年度の愛知陸上競技協会の行事も、各地区の審判伝達講習会を最後に無事終わりました。各競技会の審判業務にご協力いただき感謝しています。

昨年度に続き、日本ジュニア・ユース選手権大会を成功裡に終わることができました。審判員の皆様には前日準備を含め4日間、早朝から協力していただきありがとうございました。天候には恵まれませんでした。選手が持てる力を発揮できた競技運営だったと思います。来年度以降も続きますので、ご協力よろしくお祈いします。特に、木曜日、金曜日の出席、女性の審判員の出席を強く望みます。

昨年度の名古屋国際女子マラソンが、東日本大震災で中止になり、とても残念でしたが、被災地の方々には一日でも早い復旧復興を心より願っています。国際女子マラソンの代わりに、名古屋ウィメンズマラソンが3月11日に行なわれました。初めての大会なので、準備に戸惑い、いろいろなことがなかなか決まらず、変更続きの準備になりました。準備に当たったマラソン事務局の方々には、連日遅くまで会議や準備で、大変お世話になりました。また、審判員の方々も早朝から審判業務に当たられ、その結果が、ギネスブックに認定される(予定)ほどの大規模マラソン成功に繋がったと思います。改めてお礼申し上げます。今後の競技会でも全国大会を意識した審判業務につとめ、審判技術とマナーの向上、協力する気持ちを高めていくようよろしくお祈いします。

すでに、平成24年度の審判出席調査が始まりました。回答率が少しずつ向上してきましたが、まだまだ支部によりばらつきがあります。あくまでも予定ですから、はがきを出す段階の出欠予定をお知らせください。重ねてお祈いをしますが、住所等変更がありましたら競技会の時や回答はがきにてお知らせください。

どこの県の陸協も若い審判員や女性の審判員が少なく、高齢化が進んでいます。愛知も例外ではなく、とくに女性審判の方が少なく、女性の競技者に対する配慮に欠けることがあります。年間2回行なわれるB級審判資格取得講習会に積極的に出席していただき、若い審判員や女性審判員を増やして、競技会の活性化を図りたいと思います。知り合いの方や教え子に声をかけていただき、多くの方が我々の仲間になることを願っています。

平成24年度は新たに86名の方が公認審判員の仲間入りをします。ご指導をよろしくお祈いします。

今年度も2回のB級審判資格取得講習会を行ないます。

日時、会場等は要覧や陸協ホームページ等でお知らせいたします。(榊原 茂)

## 選手強化委員会

### 2012 都道府県対抗男女駅伝報告

都道府県対抗駅伝開会式では、代表旗手の入場時にチーム目標がアナウンスされます。各県の目標は「入賞を狙う」、「過去最高の順位を目指す」、「チーム一丸となって頑張る」といったものです。国体もそうですが県対抗競技で「優勝を狙う」と開会式で宣言できる県は毎年数県です。今大会においても開会式で優勝の言葉を添えた県は僅か2つの県でした。

「愛知の目標は常に優勝である」と宣言しています。仮に今年達成できなくても、近い将来優勝できるチームが編成できるものと確信しています。県代表スタッフがその気持ちを持ち、指導することは当然ですが、毎年入れ替わる選手に対しても常に目標設定である「優勝」を意識させなければなりません。入賞を目標設定にしての出場では優勝は有り得ません。ましてや大会出場に満足しているような選手集団から優勝は絶対に生まれません。駅伝で優勝するためには中継車に一番近い位置を走る必要があります。瞬間でも47都道府県の先頭を走ることが優勝への道です。先頭に立ちさえすれば優勝のチャンスは生まれます。そして他県選手の背中を見ないでゴールできれば優勝です。

暮れの全国高校女子駅伝では、豊川高校チームが先頭を走りそのままゴール。見事な優勝でした。豊川高校の選手は入賞を目指していたわけではありません。「優勝」オンリーだったはず。全国優勝を経験した豊川高校の選手と彼女らと県内で競っていた選手などから編成されたチームが、今年のオール愛知でした。豊川高校の選手は当然ですが、他の選手に関しても先頭で走るイメージが大会前からできていたものと思われま。

女子駅伝1区の鈴木亜由子選手(名大)がトップでタスキを繋ぐ可能性は十分あると予想していました。その瞬間から「先頭で走る」2区以降の選手はそれをイメージしなければなりません。鈴木選手は1区で区間賞を逃したものの先頭と2秒差で2区の安藤選手(豊川高)にタスキを繋ぎました。高校駅伝男子10km区間を分割した形での女子駅伝1・2区はその後の順位を決定付ける区間です。2区の安藤選手は高校駅伝1区で区間賞を僅かに逃したものの優勝の立役者となった選手です。

安藤選手の強さは、都道府県駅伝選考会でもしっかりと見ることができました。代表選手の中で当日走る選手の選考レースは、大会1週間前の合宿で実施します。代表選手として選出されていても、この選考会で後塵を拝しては大会本番で出場できません。力が拮抗している本県選手選考の悩みのひとつでもあります。現在のところこれに代わる手段は見出せません。全国高校駅伝で最大の調整をしてレースに臨んだ選手とこの選考レースを目標に調整した選手の差が現われるのは当然です。しかし、そのような条件の中、安藤選手は選考レースである4kmのラスト1kmを2分56秒でカバーし、他の選手との力の差を見せつけました。

その力を更に本番レースでは上乗せして見事第2区区間賞に輝き、愛知として目標としていたトップに立つことができました。3区中学生区間では、果敢に攻めの走りをした鷲見選手(沓掛中)が健闘したものの、大阪の有力選手である高松ムセンビ選手に後半先頭を許し、最後には力の

差が出て13秒差で2位で清田選手(中京大中京高)にタスキを繋ぎました。優勝した大阪チーム内で最も区間順位の悪かった4区(14位)で本県は4秒しか詰めることができなかったことが、この区間以降先頭に立てなかった理由です。更に5区西川選手(中京大中京高)が区間18位で先頭から大きく離れたことも優勝から遠ざかる要因となりました。しかし、区間順位的には3位を死守して山元選手(愛知淑徳高一椋山女大一積水化学)に繋ぎ、山元選手もこれに応じて区間3位の好走で北本選手(千種高)にタスキを渡しました。区間順位に変動はないものの、トップを走る選手との差はこの時点で1分あり、先頭を追うより現状を維持する展開へと流れは変わっていたのです。8区山田選手(みよし北中)は全国中学、ジュニアオリンピックと2大会の出場を怪我で見送ったこともあり、今大会に賭ける意気込みは大きいものでした。この区間で14秒差をつけられた兵庫の選手に抜かれ、順位を1つ落としましたが区間順位は5位。今シーズンの経緯を考えると良く走ったものと評価できます。順位の変動が最も見られるアンカー10km区間は2年ぶりに加藤選手(豊川高一パナソニック)を起用しました。加藤選手と言えば高校新卒の一昨年アンカーを任せられ、順位を維持した健闘が思い浮かびます。今シーズンは東日本実業団駅伝で区間賞を取るなど好調なうえ、実業団でキャリアを積んだ地元出身ふるさと選手としての期待は2年前以上のものでした。しかし、その時を上回る走りができず、残念ながら区間順位を2つ落とす結果で、昨年同様総合6位入賞でした。しかし、先

頭に立つ目標を達成した女子が県内出身選手のための編成でここまでやれたことは、今後の優勝へ向けて大きな礎を築くことができ、さらにそれが男子駅伝に影響を与えたものとして評価できます。

その男子駅伝を振り返ります。第1区は高校駅伝で入賞した豊川工高のエース小山選手。小山選手はインターハイ、国体と入賞しており、トラックシーズン結果で陸連ジュニア強化選手に選出されています。県高校駅伝においては1区区間賞であったが、全国高校駅伝では1区18位とトラックの実績から考えると不本意な結果であったことへのリベンジの大会でした。気負いが見られた全国高校駅伝を反省し、選考レースでいい走りを見せてくれたので期待したのですが、今回も順位的には満足できない位置での中継になりました。例年2区への中継は各選手の力が拮抗していることから大混雑します。今年も中位集団の位置取りは凄まじいものがあり、その位置からタスキを受け継いだ飯島選手(西浦中)の走りに託すことになりました。飯島選手はまだ2年生。初の全国駅伝ですが役割をしっかりと果たし、区間5位で8人抜きの9位で三田選手(豊川工高一早稲田大)へと中継しました。三田選手は中学、高校と県代表常連選手でしたが、一般選手としては初の大会出場です。大学4年生の箱根駅伝に出場ができなかった悔しさをぶつけるレース展開でした。実業団、学生の有力選手が集うこの区間3位、7人抜きで2位まで順位を押し上げ、高校生、中学生の後輩から繋いだタスキを先輩としてお手本になる走りを見せてくれました。本来第4

## ホープさん⑬

### 村瀬 翔太選手(城山中学校 3年)



「先生、今日陸上部の体験入部したいのですが。」「わかりました。噂によると村瀬君は足が速いらしいね。」「はい!」

これは、2年前の4月の私と彼との初めての会話である。確かに彼は速かった。ただ、速いと言っても、体育の授業で少し目立つかな?というレベルであったと思う。それもそのはず、彼が陸上部に入部した目的は、小学校から続けていたテニスのクラブチームのための体力向上であったからだ。しかし、先輩にかわいがってもらったり、同級生と仲良くなったりと、すぐチームに溶け込み、一生懸命に練習する姿が見られた。その結果、生まれ持った身体能力を発揮し、5月に陸上人生初の試合に出場し1年100mで7位になった。勢いは止まらず、市総体6位、県総体4位、そしてついに東海総体では6位になった。その頃彼のテニスへの熱はいつの間にか冷め、完全に陸上競技にのめり込んでいた。

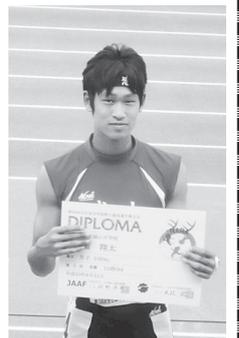
2年生になっても思い通りの結果を出し続けていったが、練習態度が以前とは変わっていった。おごりが出てきたのか、無断欠席をしたり人の話を素直に聞けなくなったりしたのである。すると、すぐに壁にぶち当たることになる。2年時の県総体では先輩たちと出場した4×100mRでつかみかけていた東海大会の切符を逃してしまった。ジュニアオリンピックでは、B100mに出場し、準決勝敗退。都道府県対抗のリレーでも悔しい思いをした。

そこから彼は自分自身を見直すことになる。常に上を目指した練習での取り組み、全国で戦うためのメニュー作成、礼儀正しい態度など、あらゆる面が見違えるように変わっていった。

3年生のシーズンが始まり、彼ははちまきを新調した。中央には金色の刺しゅうで「感謝」の文字が輝いていた。シーズン初試合の200mでは、いきなり全国標準記録を上回る記録を残し、完全に勢いづいた。100m、200mで全中出場を決める。全中では努力の成果を発揮し、100mで5位、200mで2位に輝いた。そしてジュニアオリンピックでは悲願の全国制覇を果たすことができた。最高の表情で一番高い表彰台に立つ姿は目に焼き付いている。

今の彼に「噂によると足が速いらしいね。」と、聞くとどんな言葉が返ってくるであろうか。きっと「僕はまだまだです。もっと目標がありますから!」というような言葉が返ってくるだろう。これこそ、村瀬翔太が3年間で一番成長したところではないかと思う。高校でも更なる高みへ翔(か)けていってもらいたい。

(城山中陸上部顧問 木村 亮太)



区は湯田選手（豊川工高）が走る予定でしたが、体調が整わず安藤選手（豊川工高）に選手変更しての起用となりました。区間順位を守る走り前半はうまく流れに乗りましたが、後半体のブレが大きくなるに連れて離され12秒差でタスキが5区神野選手（中京大中京高）に渡りました。5区高校生区間は最長8.5kmで、タイム差12秒は十分逆転できるものです。大会目標を語るミーティングで「この日のために練習してきた」と宣言した通りの走りを神野選手は見せてくれました。小柄で中学まで実績のなかった選手ですが、本人の並み並みならぬ努力で10km ロードの県高校記録（29分46秒）をマークするなどの実力をつけ、本大会に選出されました。全国高校駅伝に出場できなかった選手の活躍が見られるのもこの駅伝の特長です。この区間で驚異的な走りを見せた久保田選手（熊本九州学院高）と首位争いを繰り広げながら、第6区中学生区間にタスキを繋いだのでした。この区間の中学生は野津選手（青陵中）。800mで今季県中学記録を樹立しているスピードランナーです。テレビの解説でも紹介されていた通り、ラスト勝負では絶対の自信があるとの言葉を裏付ける走りでトップに立ち、アンカーの伊藤選手（トヨタ自動車）に中継しました。テレビで観戦の県民の皆様はこれで愛知は優勝だと思われた方も多いと聞いています。しかし、我々スタッフは冷静に分析して3位。場合によっては入賞圏外も覚悟していました。伊藤選手は千葉県市立船橋高校出身の20歳。本来この区間を走る予定であった内田選手（中京大中京高トヨタ自動車）の故障によって急遽この区間を任せた選手です。内田選手の起用で男女とも県内選手のみエントリー（これは我々強化委員会が目指す方向性）でしたが、不測の事態で選手変更を容認しなければならないものでした。優勝への道筋はできましたが、まだまだその道は厳しいものと見せつけられた結果の5位と受け止めています。

男女で都道府県対抗駅伝に入賞した県は兵庫（男子1位・女子4位）と愛知

順位	県名	山口国体	女子駅伝	男子駅伝
1	兵庫	1	4	1
2	愛知	4	6	5
3	千葉	3	3	
4	静岡	2	7	
5	京都	5	2	
6	東京	8		2

（男子5位・女子6位）だけです。これに国体入賞（4位）を加え、県対抗競技全てにおいて入賞した県も愛知と兵庫だけでした。（表）兵庫は国体、男子駅伝で優勝していますので今年の陸上競技最強県は間違いなく兵庫県です。そしてチーム愛知は準優勝と位置づけられます。国体、都道府県対抗駅伝は県代表として選出されることから、所属の理解なしでは存在すらできない位置づけのものです。チーム愛知を旗印に集結した県代表選手に大きな拍手を送りたいと思います。

今年も両大会において、大会期間中愛知県人会の皆様からの激励やご厚情を頂きました。さらに今回も愛知陸協から女子駅伝応援バスツアーを企画していただき、沿道、スタンドから熱烈な応援を受け、選手、関係者共々感激しました。本大会関係各位、選手起用に関してご配慮いただいた所属の皆様方、愛知陸協応援団の皆様にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。今後も「チーム愛知」を合言葉に結束を図り、強化を推進していく所存であります。

（北村 肇）

## 記録委員会

年を重ねると一日一日過ぎるのが早く、あっという間に2011年の記録集の編集時期となりました。今年（2011年）から尾張支部、野口一昭さん（高校の部）に加え新たに名古屋支部、名倉喜三郎さん（中学の部）がランキング作成に当たってくださり、二重のチェック体制でより正確な記録集が出来上がることになりました。

昨年の日本ユース選手権では、残念なことにドーピングによる失格競技者が出ました。記録の扱いについて今後の指針となることもあり、陸連からの指示に時間がかかり、その処理に1月末までかかりました。

一つの競技会が終わるごとに記録をチェックし、公認記録申請書を作成します。その後日本陸連へ送付、専門誌へのリザルト提供、ランキングの資料としてパソコンに記録の入力をします。その積み重ねで、8月には前期分として1月から7月の競技会について入力済みの記録とリザルトの再チェックをします。11月からは最終の再々チェックをし、年末までに日本陸連監修の記録集資料との照合のために、大会リザルトの保管場所（物置）まで何度となく出入りし削除、追加、修正して報告します。さらに陸上競技専門誌からの資料と照合し提供をします。並行して2011年愛知記録集の編集に細心の注意を払い、再度確認とチェックを済ませて印刷。誤字・順位等のチェックと平均記録の計算、県記録一覧表関係の修正、パソコンへの再入力、プリントアウトの後、さらに最終のチェックを済ませて印刷発注が2月中旬になり発行は3月1日となりました。

2011年の新記録は、以下の通りですが、昨年に比較して中学生を中心にして少し低調だった感がします。

### ◎ 2011年に更新された愛知県新・タイ・最高記録等

（2011.12.31 現在）

#### 愛知県新記録

- 男子 200m 20.87 屋貝 博文（中京大）  
 [第80回日本学生対校選手権（熊本） 9/11]  
 400m 45.97 中野 弘幸（愛知教育大院）  
 [第8回トワイライトゲームズ（代々木） 7/24]  
 10000m 27.41.57 宮脇 千博（トヨタ自動車）  
 [八王子ロングディスタンス（法政大） 11/26]  
 100Km 7.18.59 甲斐 実（名古屋市役所）  
 [第26回 サロマ湖ウルトラマラソン（北見） 6/26]
- 女子 100m 11.43 市川 華菜（中京大）  
 [第45回織田幹雄記念国際（広島広域） 4/29]  
 200m 23.62 市川 華菜（中京大）  
 [第95回日本選手権（熊谷） 6/12]  
 10000mW 46.56.80 占部 磨美（三菱自動車岡崎）  
 [平成23年度ひろしま県央競歩（東広島） 11/27]  
 10KmW 47.11 占部 磨美（三菱自動車岡崎）  
 [第95回日本選手権 20Km 競歩（途中）（六甲） 2/20]  
 20KmW 1.35.26 占部 磨美（三菱自動車岡崎）  
 [第95回日本選手権 20Km 競歩（六甲） 2/20]

#### 高校新記録

- 男子 10Km 29.42 神野 大地（中京大中京）  
 29.48 小島 秀斗（豊川工）  
 29.49 西尾 尚也（豊川工）  
 [第33回犬山ハーフマラソン・10Km（犬山） 2/20]  
 10KmW 42.10 木村 洋介（弥 富）  
 [日本ジュニア選抜競歩（六甲） 2/20]

名岐駅伝いまむかし⑬

第23回大会(昭和32年) — 「一部」27チーム・「二部」48チーム参加 —

一部：中央発条二連勝 二部：東邦高戦後初の優勝

参加申込数は86チームであったが、棄権が「一部」2「二部」9あり、計75チームの章駄天が「昇竜旗」を目指して健脚を競った。

戦前の展望では、「一部」は中央発条、昨年の雪辱を期す東洋ベアと東海学生界の雄中京大に加えて、上位入賞を目指す大日本紡績A、東レ愛知、名城大等の激戦が予想された。

レースは、1区は名城大、2・3区は東洋ベアがトップで通過したが、4区に入って中央発条(木村、小塚、竹内、大脇、杉浦、丹羽、安藤、伊藤)の大脇が好走し、折返し点で2位に17秒差をつけて首位に立ち、そのまま追いつがる東洋ベアに4分30秒近い差をつけて、3時間51分30秒で連覇を果たす。

「二部」は、予想通り、昨年の全国高校駅伝県予選で同タイムながら勝った東邦と惜敗の中京商、それに東海高校駅伝を制した豊橋工の三つどもえの激しいレースが展開され、1区は中京、2・3区は東邦、4区は中京が首位に立ったが、5区で中京に44秒差でタスキを受けた東邦(伊藤、沢登、河村、内田、大野、橋場、江藤、梁瀬)の大野が逆に48秒の差をつけて次走者につなぎ、そのまま首位をキープして3時間56分24秒でゴール。第11回大会(昭和16年)以来となる4回目の優勝を遂げる。

2位以下の結果は、次のようである(4位以下は愛知県勢のみ記載、以下、同じ)。

一部：②東洋ベア 3.55.56 ③大日紡 A3.58.15 ④中京大 ⑤東レ愛知 ⑥新三菱A ⑦名城大 ⑧豊橋青 ⑩愛知県庁

二部：②中京商 4.00.25 ③豊橋工 4.01.44 ⑤西尾実 ⑥大同工 ⑧半田農 ⑩名電気

〈注〉一・二部共、11位以下の結果は、翌日の新聞にも記載されていないので不明。

第24回大会(昭和33年) — 「一部」35チーム・「二部」55チーム参加 —

一部：中京大 学生陣で初の優勝 二部：中京商 7回目の優勝

零下3度という厳寒ながら快晴に恵まれた好条件のなか、棄権3(一部1、二部2)を除く90チームが、今大会から発着場所が変更になった〈テレビ塔下〉をスタート。コース変更(1・4・5・8区)で前回大会より6.8キロ長くなった伊吹路で接戦を展開した(図)。

一部は東海学生界の雄中京大(塩塚、肥田、安藤、日野、梁瀬、竜野、伊佐治、中尾)が、1区からトップに立ち、そのまま3・6・7・8区走者も区間1位の好走を見せ、3時間58分35秒の好記録で初優勝を飾る(写真)。2位の東洋ベアは、1区で中京大に2分49秒差の7位以下の滑り出し、5区で首位に2分近くまで追い上げて2位に浮上したが2位。三連覇を目指した中央発条も4区まで中京大を追走していたが、5区で東洋ベアに抜かれて3位に終る。

なお、本稿で度々取り上げている名岐駅伝の名物ランナー柴垣利明(50歳)が、今回江南走友クで7区を走り24回連続出場を果たす。レース後「せめて連続30回は走りたい」と元気なところをみせた。また、駅伝とは関係ないが、大相撲が年6場所制になったのはこの年の初場所からである。

二部は、全国高校駅伝県予選(32/11/24)と東海高校駅伝(1/12)の1位中京商、2位東邦、3位豊橋工の3校での熾烈な首位争いが前回大会同様注目された。

レースは、下馬評で最も優勝の呼び声が高かった中京商(鈴木、村越、永山、杉浦、岩本、菊谷、稲垣、伊藤)が、1区から飛出し、5区で一時豊橋工に追い抜かれたが中継所直前で豊橋工の走者にアクシデント(注)があり、結局、全中継所を1位通過した中京商が4時間11分30秒の好記録でゴールし、兄貴分の中京大とのアベック優勝を果たす。

2位以下の結果は、次のようである。

一部：②東洋ベア 4.03.05 ③中央発条 4.06.04 ④東レ愛知 ⑤新三菱A ⑥名城大 ⑦第一毛織 ⑧大日紡 ⑨豊橋工 ⑩名商大 ⑪日本碍子 ⑫愛知県庁 ⑬名走友 ⑭碧南ク ⑮三菱電 ⑯安城ク ⑰新三菱B ⑱東レ名古屋 ⑲八楽ク ⑳江南走友ク ㉑西尾走友 ㉒半田農ク ㉓小坂走友 ㉔東海銀 ㉕渥美ク ㉖愛知県警 ㉗森保産業 ㉘富士電機 ㉙愛知機械 ㉚ワシノ(岐阜・恵那郡体協は途中棄権)。

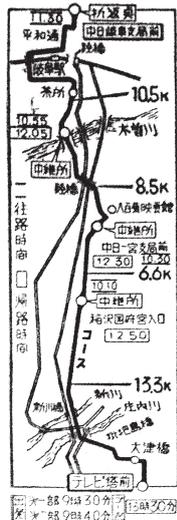
二部：②東邦 4.13.26 ③豊橋工 4.13.55(参考記録) ④大同工 ⑥半田商 ⑦半田農 ⑧新城 ⑩一宮商 ⑬西尾実 ⑯愛知工 ⑰渥美農 ⑱滝実 ⑲犬山 ⑳名市工芸 ㉑西陵商 ㉒名商大付 ㉓名電気 ㉔大府 ㉕津島商工 ㉖足助 ㉗明和 ㉘昭和 ㉙瀬戸窯 ㉚西尾実(定) ㉛桜台 ㉜尾北 ㉝半田 ㉞向陽 ㉟瀬戸 ㊱田口 ㊲名市工 ㊳東海 ㊴旭丘分校 ㊵本郷 ㊶名西 ㊷内海 ㊸菊里(定) ㊹豊川工 ㊺名古屋 ㊻起工 ㊼横須賀 ㊽稲沢 ㊾津島 ㊿名城大付 ㊿祖父江

(注) 第5区の木曾川中継所の直前で首位を走っていた豊橋工福山選手が、前を走行中のトラックが急停車したために右側に出たところ、前方から走ってきた軽トラックにぶつかって転倒し、右下腿部を骨折し2ヶ月の重傷を負う。レースは緊急役員会議で協議の結果、順位はそのままとし、タイムを参考記録とした。

(訂正)：第24号16頁 ①上から2行目 誤「・(昭和32年)・」→正「・(昭和31年)・」。

②下から6行目 誤「豊橋工(昭和32)・」→正「・(昭和31年)・」。

(西垣 完彦)



コース略図



「中部日本新聞」(33/1/27) 優勝の中京大チーム (前列左から)塩塚、肥田、梅村学長、伊佐治、中尾(後列)堀尾マネージャー、野沢、日野、中島マネージャー、小山、安藤、竜野、柳瀬、斉コーチ

4×100mR 40.41 名古屋  
 (掛川 真・河室裕貴・掛村将之・渡辺将之)  
 [第71回愛知選手権(瑞穂)7/2]  
 ハンマー投 66.38 墨 訓熙(起工)  
 [第26回日本ジュニア選手権(瑞穂)10/23]  
 女子 800m 2.06.21 竹内麻里子(中京大中京)  
 [第64回全国高等学校対校選手権(岩手)8/6]  
 1000m 3.10.37 柴田 夏希(一宮北)  
 [平成23年度第3回尾張支部記録会(一宮)10/30]  
 100mYH 13.91 萩原加奈子(豊橋南)  
 [第66回国民体育大会(山口)10/9]  
 やり投 48.08 高塚 裕子(名城大附)  
 [第58回東海高校総合体育大会(小笠山)6/19]

#### 中学新記録

男子 800m 1.56.14 野津 亮祐(青陵)  
 [第38回全日本中学選手権(奈良)8/20]  
 女子 4×100mR 47.47 愛知選抜  
 (掛川 栞・中野真琴・河合詩菜・伊藤南侑)  
 [日本ジュニア・ユース選手権招待(瑞穂)10/22]  
 棒高跳 3.00 佐藤 愛(千種)  
 [県選名古屋支部予選(瑞穂)6/4]  
 4種競技 2615点 早瀬 名菜(長良)  
 (15.51(1.7)-1.45-11.97-28.20(-1.2))  
 [名古屋支部混成(半田)5/8]  
 ジャベリックスロー(参考) 50.48 森 凧紗(牧ノ池)  
 [第32回愛知ジュニアオリンピック(瑞穂)9/20]

#### 一般外国人(愛知県記録を上回る最高記録)

男子 3000m 7.46.01 J・ツオー(トヨタ自動車)  
 [第12回中部実業団選手権(多治見)10/10]  
 10Km 28.33.(タイ) S・ドゥング(愛知製鋼)  
 [第65回丸亀国際ハーフマラソン(途中)(丸亀)2/20]  
 女子 1500m 4.07.74 A・カリンジ(豊田自動織機)  
 [大邱国際(韓国・大邱)5/12]  
 3000m 8.48.89 A・カリンジ(豊田自動織機)  
 [ディスタンスチャレンジ(網走)6/22]  
 5000m 15.15.89 A・カリンジ(豊田自動織機)  
 [ゴールデンゲームズin延岡(延岡)5/28]

#### 高校外国人

男子 5000m 13.49.46 K・ジェレミア(豊川)  
 [平成23年度第3回駅伝強化長距離(瑞穂北)11/12]  
 10000m 28.44.32 K・ジェレミア(豊川)  
 [県選東三河支部予選会(豊橋)6/5]

#### 小学生最高

女子 6年 80mH 12.91 原 智聖(JAC大府)  
 [知多愛日秋季競技会(半田)10/9]  
 6年走幅跳 4.98 吉村 月乃(東浦AC)  
 [第26回愛知小学生選手権(混成)(瑞穂)11/3]  
 2種競技(A) 1908点 吉村 月乃(東浦AC)  
 (4m98(-0.8)-13.57(-0.4))  
 [第26回愛知県小学生選手権(瑞穂)11/3]  
 (岡田 武彦)

### 女性委員会

平成23年度 日本陸連女性委員会報告

開催日 平成24年2月11日(土) 13:00~16:00

会場 岸記念体育館5階 504・505会議室

出席者 石田美知枝 脇田 千鶴

■挨拶 女性委員会委員長 小松 邦江  
 平成21年4月より委員長を引き継ぎ、活動目標を掲げてその実現に向け取り組みをしてきた。今年度は委員会のメンバーを増やし、地域の意見をより多く取りあげようと考へた。これまで2回の会議を経て、本日の全国会議に臨んでいる。

#### ■講演「組織のリーダーから見た女性の活躍」

京都陸上競技協会 会長 田中セツ子  
 市職員や市議会議員等の経験を経て、今年度より京都陸協会長に就任した。(全国の陸協で唯一の女性会長)陸協会長としての目標は、「都道府県対抗男子駅伝京都チームの後援会設立(女子駅伝京都チームのように男子も強くする)」と「京都マラソンの成功」である。実践していることは、常に目標を持ち、それを達成するために努力し続けること。また苦言に耳を傾け、相談事には明快に答えること。人に頼られる存在であることを心がけることの3つである。皆さんも、組織の中で活躍して欲しい。

■挨拶 日本陸上競技連盟 事務局長 風間 明  
 陸連組織と事務局の活性化を図っている。特に力を入れているのは、「普及」と「登録」についてである。また現在、専務理事が各県陸協を回ってヒアリングを行なっている。地域陸協の活性化がなければ、陸連は大きな事業ができない。ご理解とご協力を賜りたい。

#### ■体験発表「女性指導者として」

女性委員会委員 宮崎陸協女性委員 大山真由美  
 現役時代は400mに取り組み、競技成績も残すことができた。結婚・出産・子育てと並行して、小・中学校の部活動指導を続け、現在までに多くの選手を育てることができた。この経験から若い女性指導者にアドバイスできることは、「その時に与えられた事をきちんとやる」「部活動で成果を上げるには、まず授業にしっかり取り組み、他の教員や生徒の信頼を得られるようにする」「家族等、サポーターをつくる」「指導力の根本は目を見ること。生徒に寄り添い目をしっかり見て話すと、体調や心が見えてくる」「若い人の感性に目を向け、しなやかな体とやわらかい頭で物事に取り組む」ことである。

#### ■全体意見交換(各都道府県陸上界における女性の活動の実態調査アンケート結果に基づく)

司会 女性委員会副委員長 浅見美弥子  
 ほとんどの陸協では、女性の指導者・審判員・役員等の数が少なく、活動も活発とは言えない。「大会時の女性の役割」「競技者としてのマナー」等、この意見交換や陸連主催大会で見聞きし、得たことを各陸協の取り組みとして活かしてほしい。各々が意識を高めて、積極的に活動していくことが大切である。

#### ■地域別意見交換

各陸協からの参加者42名と女性委員会委員が7地域のグループに分かれて、各々の地域の問題点を挙げて検討した。<東海地域> 進行役 岐阜陸協 常務理事 田中 里枝  
 「競技者の生活環境」「託児所」「審判員の研修」「公認コーチ講習会受講」について話し合いをした。

■閉会挨拶 女性委員会委員長 小松 邦江  
 会議内容を参考にし、各陸協の取り組みに反映させてもらいたい。

(脇田 千鶴)

関係団体報告

小学生友の会  
小学生友の会活動

1 大会結果

11月 第25回愛知県小学生陸上競技選手権大会瑞穂陸上競技場(大会新記録分)

- 6年女子100m 川端 真奈(安城JAC) 13.07
- 6年女子80mH 原 智聖(JAC大府) 12.93
- 6年女子二種B 吉村 月乃(東浦AC) 1908
- 6年女子4×100m 安城JAC 52.55

(鳥居夏帆・川端真奈・森みくる・野村梨紗)

12月 第10回愛知県小学生長距離走記録会 ウェーブスタジアム刈谷

1500m×6人=9000mの合計タイム

- 優勝 田原陸上クラブA 30.36.48
- 2位 岡崎JAC-A 30.53.81

- 3位 蒲郡くらぶA 31.13.91
- 4位 JACあつみA 31.20.48
- 5位 江南駅伝チームA 31.41.52
- 6位 阿久比陸上クラブA 31.57.53
- 7位 豊橋陸上クラブA 32.00.47
- 8位 へきなん陸上クラブA 32.21.92

優勝した田原陸上クラブが“日清食品カップ”全国小学生クロスカントリーリレー研修大会(3月17・18日 万博記念公園)へ愛知県代表としての出場を決めた。

2 23年度の反省

(1) “日清食品カップ”全国小学生陸上競技交流大会では全16種目(男女の友好100mを含む)中、11種目で決勝進出を果たし、6年男子100mの大原康平(なごや陸上ク)と5年女子100mの米重美虹(豊橋陸上ク)においては全国1位と、大変優秀な成績を収めることができた。しかし、実力がありながらも、惜しくも決勝へ進めなかった選手もあり、愛知県選手団として、前日・当日のコンディションの調整に課題が残った。

(2) 撮影禁止場所の設定・規制の看板の増設・招集所への

渥美半島一周駅伝いまむかし ①

第1回大会(昭和24年1月9日) 優勝の栄冠「豊橋青年」に

戦後復活の一手として、陸上、水泳、野球が次々と大会を開催する中、箱根駅伝、名岐駅伝に引き続いて、渥美半島駅伝が誕生した。(毎日新聞社、愛知陸協、豊橋陸協主催)昭和23年長坂正三、鈴木吾一(豊橋陸協)榎本金吾(渥美)ら多くの陸上大好き人間によって、コースの選定、協賛企業(豊鉄バスKK、豊栄百貨店、ユタカ産業etc)の依頼に飛びまわり、昭和24年1月9日、正月気分も残る厳冬の中開催された。コースは渥美半島を一周する85.0km8区間で、強豪12チームの参加を得て熱戦が繰り広げられた。開会式は豊橋中央公民館前で、辻本毎日新聞名古屋総局長挨拶、長坂審判長の注意事項、中島岩男(豊橋青年)の選手宣誓があって、午前10時00分スタート、国道1号線を横断して豊橋市内を走り抜け、小池から愛大を過ぎる頃から強い浜風が横なぐりに吹きつけ、大接戦の内に老津中継所へ、第2区中継所の田原町に入ると沿道の大声援と共に伴走の自転車部隊の競い合いが始まった。風光明媚な江比間海岸の松並木と白波立つ三河湾を過ぎると福江に入り、温かさを感じる渥美路に入った。路傍に咲き乱れる草花に疲れをいやし、表浜太平洋に入り走方向を東に変えると、赤羽根、東神戸の起伏の多いコースに苦闘する選手、高塚サンドスキー場を右手に高塚中継所を経て、午後3時30分豊橋青年がゴールに飛び込んで来た。5時間30分の壮大なレースを走り終えたチームが次々と到着する。午後4時からの閉会式、大竹豊橋市長の挨拶、毎日優勝楯と多くの賞品を手にした選手の喜びの姿は

印象的だった。

この大会では選手と伴走者が一体となって、ワイショワイショとお祭りさわぎの駅伝風景が当たり前、このため数少ない自転車を集めたり、遠隔地からの参加チームも自転車を動員し応援に駆けつけた。新城からは、豊橋まで2時間、95kmを伴走すること5時間余り、帰りに2時間計10時間にも及ぶ駅伝自転車部隊も影の功労者とも言える。何ともなつかしい時代ではないか。また主催者より伴走者の表彰も行なわれ、駅伝に対するプライドも大したものであった。現在では伴走禁止は当たり前!!

また当時の選手は夜間の練習が主で、靴は大切なもので布足袋、地下足袋で走ったり、粗悪品の靴はすぐに靴底にひび割れが生じ、包帯を巻いて走ったりした。

大会終了後は直ちに陸協役員の反省会が開かれ、異例とも言うべき同年12月18日に第2回大会を開催する運びとなって以後、毎年12月下旬に開催する事が決まり、東三陸協の忘年会も行なわれ、東三陸協の名物行事として現在まで64回大会を迎える事が出来た。

なお新聞、ラジオ放送が唯一の情報時代、東海地区JOCKローカル放送を通じ渥美半島駅伝の話題を流し、3回にわたって有力選手、チーム紹介が放送され、かなり熱の入った大会でもあった。

第1回の駅伝成績

- 1位 豊橋青年(中島、筒井、朽木、杉浦、中野、水谷、八木、鈴木) 5時間30分48秒
- 2位 西尾実業ク 3位 名走友 4位 八楽ラビット 5位 愛知二師 6位 新城高
- 区間賞 1区柴田敏男(豊橋実業高) 2区鈴木照夫(西尾実業ク) 3区浅井 正(名走友)
- 4区山下重雄(西尾実業ク) 5区野村秀吉(名走友) 6区水谷一男(豊橋青年)
- 7区松井清次(西尾実業ク) 8区中條隆夫(三菱電機)

今回は2回~9回まで、コースの変更が行なわれる10回大会以降は順次掲載する予定。

(牧田 功)



コーチ付き添いの制限等の措置により、愛知県大会における応援・観覧のマナーは向上している。今後も、招集時間の厳守、コーチ・保護者の多目的広場への駐車等のマナー向上を呼びかけていきたい。

(大矢新吾・石田 伸)

## 中小体連

### 2013 愛知全中に向けて

2011 年は、中体連に関わる大会や行事にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

2013 年に開催される愛知全中の日程が決定しました。会場と日時は以下のとおりです。

会 場：名古屋市公会堂（開会式）

瑞穂公園陸上競技場（競技・閉会式）

日 時：8月19日（月）開会式

8月20日（火）競技

21日（水）競技

22日（木）競技・閉会式

大会を行なううえで、多くの方々にご協力をいただかなくてはなりません。全国から決戦の地愛知を目指してくる延べ約 2000 人の中学生たちが素晴らしい競技を行なえるよう、中体連、協会の枠を越えて「チーム愛知」が一丸とならなければ、本大会を成功に導くことはできないと考えております。今後、愛知全中に向けて関係各部署に無理なお願いをすることもあるかと思いますが、何とぞよろしくお願い申し上げます。

愛知全中では、1 回目から不正スタートした競技者を失格とする最初の全中となります。2012 年の全国ジュニアオリンピックからそのルールが適用されるわけですが、選手、審判ともに慣れない中での全国大会実施となりますので、十分な準備と注意が必要だと思われます。指導者においては、選手に対しての不正スタート対策の指導が必要となりますし、スターターにおいては、より一層の技術向上に向けて努力が必要となります。すでにジュニア・ユース大会では適用されておりますが、中学生では初めてとなりますので、お知りおきください。

地元愛知開催の全国大会を盛り上げるためには、多くの地元選手が大会に参加し、活躍することも重要になってきます。現在、愛知全中に向けて各学校、各地区で選手強化を行なっていることと思います。中体連としても、多くの選手が愛知全中に出場し、活躍することを強く願っております。ここ数年、国体強化事業の中に中学生を多く参加させていただくことで、県内中学生の強化を図ってまいりました。今後もこの流れを第一とし、県内中学生の強化をしていく方針です。2012 年から 2013 年の全中本番に向けて、国体強化事業のみならず、ジュニア強化と銘打って、練習会・合宿の機会を増やし、実施していく予定です。また、小学生の優秀な選手にも参加してもらい、ジュニア層の幅広い強化を展開していく予定でもあります。まずは目前の愛知全中に向けての強化となるのですが、長い目で見た時、中学生の強化が愛知代表（国体）の強化につながり、そこから日本代表を目指す流れになれば一番よいと考えます。これまでの強化策が一過性のものとならず、この全中をきっかけに愛知の中学生の強化体制がより一層充実したものとなるように努力いたしますので、関係各所属、強化委員会の先生方についてはご協力お願いいたします。2012 シーズンもよろしく申し上げます。(久米 裕朗)

## 高体連

### 高体連陸上競技部の活動について

23 年度の北東北総体の陸上競技は、大震災から 5 ヶ月にも満たない岩手県で開催されました。今思い返してみても開催県の方々のご苦労は並々ならぬものがあったであろうと思うと、いまだに感謝の気持ちが絶えません。

そんな中で、愛知県は 4 年連続で全国高校総体に 100 名を超える選手が参加して活躍しました。なかでも男子 400m ハードルで名古屋の岡田壮平選手が圧勝、女子では 3000m で豊川のワイナイナ・ムルギ選手が 2 連覇を達成したのを始め、男女合わせて個人種目で 16 種目延べ 20 名、リレーで 2 種目が入賞というすばらしい活躍を見せてくれました。

12 月 25 日に京都で行なわれた全国高校駅伝では、男子の豊川工業が前半の遅れを後半で取り返し見事 6 位入賞、女子は豊川が昨年度の雪辱を果たし圧巻の優勝というすばらしい活躍を見せてくれました。

また、12 月 25 日～28 日まで、瑞穂陸上競技場を中心に、東海・近畿の選抜合宿が行なわれました。県内外からすばらしいコーチングスタッフをお招きし、東海・近畿地区の計 10 県から来年度の全国高校総体で活躍が期待できる 1・2 年生約 300 名が、寒さをものともせず熱心に練習に取り組んでいました。なお、この合宿は 24 年度も愛知県で開催されます。

24 年度の全国高校総体の陸上競技は新潟県で開催されます。サッカー Jリーグの新潟アルビレックスのホームグラウンドであるビッグスワンというすばらしい競技場で行なわれます。またここでも多くの愛知県の選手が活躍してくれるものと期待しております。

24 年度の競技会日程がほぼまとまりましたが、そのうち高体連関係だけをピックアップしてお知らせします（紙面の都合で県大会以上のものだけ掲載させていただきます）。

#### ○高校総体関係

- ・県総体 5月18日（金）～20日（日） 瑞穂
- ・東海総体 6月15日（金）～17日（日）  
長良川（岐阜県）
- ・全国総体 7月29日（日）～8月2日（木）新潟市

#### ○新人戦関係

- ・県新人 9月29日（土）・30日（日）瑞穂
- ・東海新人 10月27日（土）・28日（日）  
伊勢市（三重県）

#### ○駅伝関係

- ・県駅伝 11月4日（日）知多市
- ・東海駅伝 11月25日（日）岐阜市
- ・全国駅伝 12月23日（日）京都市

(大島 修)

## 高体連定通部

### 「23 年度を振り返って」

全国定通陸上大会は自転車振興会からの補助金を受けて開催されているが、23 年度は事業仕分けで補助金がなくなるかもしれないという危機感を持って年度が始まった。幸い、影響はなく関係者はほっと胸をなでおろした。しかし、震災の影響で、企業が土日就業となったため、企業に勤める選手に影響があった。強化練習会も日程を変更して

行なった。

県内の大会は関係者の協力により無事開催することができた。参加選手数は決して多くはないが、他の都道府県との状況と比べれば安定している。男子は科技高刈谷、女子は豊橋に部員が多く、総合優勝を続けている。

昨年度は全国大会の総合成績で入賞を逃すというこれまでにない結果であったが、今年度は愛知本来の強さを発揮することができた。実力のある選手が順調に伸びてきた結果である。来年度は男子5000m、3000mSC、女子400mで優勝をねらえる選手がいるので、愛知の強さを継続していってくれることを期待している。

1月29日(日)東京：日本青年館での全国代表者会で、来年度の全国大会が平成24年8月13日から15日まで国立競技場で開催されることが決まった。(松橋 政人)

## 学 連

### 「この1年を振り返って / 来年度への抱負」

前回(第24号)でも報告したように昨シーズンは東海学連の愛知陸協所属の学生選手が多数活躍したシーズンであったが、その中でも特に世界選手権(韓国・テグ)、ユニバーシアード(中国・深圳)を始め、神戸で開催されたアジア選手権など国際大会での活躍が目立った一年であった。ユニバーシアードでの中野弘幸選手(愛知教育大院)の活躍(4×400mR 銀メダル)や今井沙緒里選手(至学館大学)、市川華葉選手(中京大学)のテグ世界選手権出場を始め、アジア選手権における今井選手(4×100mR 金メダル、200m 銅メダル)、中村明彦選手(中京大学、十種競技銀メダル)等、国際大会に参加するだけでなく本番で結果を残していることは立派である。

東海学連ではこのような国際舞台での活躍を評価し、昨シーズンの最優秀選手として中野弘幸選手、今井沙緒里選手を選出している。

また国内の大会における活躍も著しく、特に昨年の日本インカレでは東海学連所属の選手達が多数活躍した。総合得点においても男子の部で中京大学が最終種目の4×400mリレーまで早稲田、日大とデッドヒートを繰り広げ、最終的には2点差で3位という結果を残しているが、中京大学の主力選手は愛知陸協所属の選手(服部達也、舟瀬勇太、田口博崇、屋貝博文、安井一樹、中村明彦、山本聖途、近藤清貴)が中心である。これらはほとんどが3年生以下の選手であるため来年度以降も活躍が期待される。

その反面、10月に山口で行なわれた国体において当初活躍が期待された市川選手、中村選手が不出場となり、愛知県の得点争いに貢献できなかった事は一つの反省点である。来年度は地元東海地方での国体開催ということもあり、愛知陸協の強化部と協力しながら国体でも学生選手が活躍できるように努力したい。

近年高校生の進学に関しては地元志向が強い傾向があるが、高校生の優秀な人材が豊富な東海地区、特に愛知県においては地元高校生の受け皿となる大学の強化を充実させ、高校から大学、ひいては社会人への移行を円滑に行き行くことは愛知陸協及び東海学連の共通の課題であり、今後ますますの連携が必要となってくる。

2012年はオリンピックイヤーであり、東海学連の選手が多数日本代表としてロンドン五輪に出場・活躍できるようにご支援を願いたい。(本田 陽)

## 実業団

### 【新年度から中部連盟会長会社がNTN(株)から愛知製鋼へ】

甚大な被害をもたらした、東日本大震災から1年が経過した。

復興の象徴として、全日本実業団女子駅伝が昨年12月に宮城にコースを変更して開催され、大いに盛り上がった。奇跡的に被害の少なかった松島をスタート、仙台市陸上競技場をゴールの6区間42.195kmで行なわれた。

中部実業団からは、デンソーが3区の杉原加代の区間賞の快走もあり、過去最高の第5位と健闘した。同じく連盟枠で出場した豊田自動織機は、優勝候補の一角にも挙げられていたが12位の結果であった。また、復興特別枠としてユタカ技研・愛知電機・小島プレスが出場し、最後まで諦めない走りで行道を沸かせた。

女子の全日本実業団駅伝の来年度の出場枠については、今回の結果を踏まえ検討することになった。例えば、予選会も現在は東日本、中日本、西日本の3ブロックで開催されているが、34チームしかない状況や参加標準タイム(2時間20分以内)の見直し論等もあり、今後改めて検討していくことになった。

また、男子の全日本実業団駅伝(ニューイヤー駅伝)は元旦に群馬で開催され、2連覇を狙ったトヨタ自動車は、健闘及ばず第4位に終わった。上位4チームまでが大会新とハイレベルの大会であった。中部連盟からはトヨタ紡織が11位、NTNが13位、愛知製鋼が14位、八千代工業が28位、愛三工業が30位と健闘し、今回の成績から来年の中部連盟の出場枠は1増えて7チームとなった。

区間賞は7区間中、実に3区間を中部連盟の選手が獲得し、大いに気を吐いた。区間賞[2区：エドワード・クウエル(NTN)、3区：宮脇千博(トヨタ自動車)、7区：高林祐介(トヨタ自動車)]来年の大会では、中部連盟のチームが優勝旗を奪回することを期待したい。

中部連盟も規約にのっとり、新年度から会長会社も愛知製鋼になります。これまでのNTNの鈴木泰信会長、野々健二理事長および小澤利之事務局長のご尽力には心より御礼申し上げます。

昨年の3月11日のあの、未曾有の大震災(未だに復興には程遠い状況ではありますが…)、そしてタイでの洪水被害、それから円高、ユーロ安、さらには政治の体たらく等の4重苦、5重苦の取り巻く環境は大変厳しい状況です。こんな時だからこそ、我々は実業団の末席を汚す1員として、これまで以上に驕らず真摯な態度で、日頃から競技活動を支えてくださる会社及び職場の皆様へ感謝の念を忘れずに努力精進したいものです。

(樋高 勇二)

## マスターズ陸上

### 心豊かな長寿社会への貢献役

12月18日(日)山口市で開催された第24回全日本マスターズ駅伝大会で、愛知は、男子2位、女子4位、エルダー2位と3部門で上位入賞する大活躍でした。しかし内容を見ると男子は1区から長野の独走を許し、一度の競り合いもなくゴールでは約2分の遅れをとる完敗の2位でした。救いは50歳代の区間で下川勝彦が強豪ぞろいの中、2年連続区間賞を取りました。長野には完敗でしたが、各選

手の頑張りでも2位という好成績を取ることができました。

女子は実業団クラスの選手がいないことから、優勝を狙うには厳しい戦力でしたが、選手は力どおりの走りを見せ、4位に入賞しました。

エルダーの部は1区が2位、2区が先行する石川を抜き1位で3区につなぎ、そのまま1位でアンカー区間につなぎましたが、福島に抜かれて2位となりました。アンカーには強豪選手が揃っていましたが、中でも福島は別格の強力な選手でしたので、2区、3区で今少しの貯金ができなかったことがアンカーに負担をかけたと思います。エルダーの部は、一昨年はアンカー区間で大阪を大逆転して優勝、昨年はアンカーが1位から2人抜かれて3位。この3年間はいずれもアンカー区間で勝負が決まることになりました。

来年度は、11月に東京で開催され、現在の3部門から男女混合の部とエルダーの部の2部門になる予定です。また、新しい展開が予想されます。

今年度の行事も順調に進み、3月24日に総会を開催しました。平成23年4月に新執行部が発足し、新たなメンバーでの最初の行事は、4月24日(日)の第40回記録会でした。この記録会には小学生179人を始め、総人員401人が参加しました。この多人数のため記録会の競技進行が大幅に遅れ、参加者に大変なご迷惑をかけることになりました。参加された選手、競技役員、競技場の予約者等の皆さんのご理解とご協力により、無事競技を終えることができました。

この記録会はマスターズ会員のみならず、一人でも多くの陸上愛好者に参加していただくことが本旨ですが、限られた時間の中で競技を円滑に進行するため、小学生の参加を制限する必要に迫られました。第42回からは種目の見直しや一部参加制限をし、円滑に運営できました。

平成24年度は、試行として小学生の申込を事前に受け、参加人数を調整したいと考えています。これから多くの皆さんが楽しんでいただける運営をしていきたいと思っています。

(佐野 昭二)

## 愛知陸協 OB、OG 会

### 新年懇親会

OB・OG会は年々会員が増加し、現在138名の会員で構成しています。

主な行事は、愛知選手権1日目競技終了後、総会と懇親会を行ない、秋には日帰り旅行、1月に新年懇親会と年3回開催し、会員相互の交流と親睦を深めています。

今年は1月28日・29日東三河支部の御世話により「蒲郡荘」で新年懇親会を行ないました。國分一郎世話人代表の挨拶の後、出席者最高齢の松下巖司(93才)の力強い乾杯で宴に入り参加42名の会が盛大かつにぎやかにすみ、楽しい時間を共有することができました。

その折、蒲郡でみかん栽培をしてみえる小田九郎三さんが全員にみかん一袋ずつを差し入れてくださいました。改めて厚く御礼申し上げます。

さて、昨年の世話人会で会則を一部改正して女性の入会を認めることになりました。入会資格は男性は60才ですが女性は50才以上としています。

お互い、陸上競技の縁で性別に関係なく楽しい会にしていくことができると願っています。

各支部に世話人がおられますので、是非お声をかけていただきたいと思います。現在の世話人を紹介いたしますので、何卒宜しくお願い致します。

名古屋支部 國分 一郎 竹内 信雄 平林 栄次  
高木 章治 村瀬雄一郎 伊藤紀久夫  
尾張支部 小椋 征弘 小島 末広  
西三河支部 山内 満 古久根啓之(外山 修)  
東三河支部 柴田 要支 加藤 春雄  
女性世話人 石田美知枝

(村瀬雄一郎)

## 競技会報告

### 第62回全国高校駅伝(男子)

2011年12月25日(日)

西京極運動公園陸上競技場 7区間 42.195km

成績(本県のみ)

第6位 豊川工 2.06.03

(小山裕太・金尾圭祐・湯田晟旭・平 和真・奥野翔弥・安藤悠哉・成瀬雅俊)

区間賞 4区(8.0875km) 平 和真(豊川工) 23.32

5区(3km) 奥野翔弥(豊川工) 8.54

### 第23回全国高校駅伝(女子)

2011年12月25日(日)

西京極運動公園陸上競技場 5区間 21.0975km

成績(本県のみ)

第1位 豊川 1.07.29

(安藤友香・宮田佳菜代・加治屋ななこ・福沢志穂・ワイナイナ・ムルギ)

### 第73回東海学生駅伝対校選手権大会

2011年12月4日(日) コース：知多半島一周 7区間

男子成績

1 愛工大 A 3.24.43

(山内康平・大原 司・割田雄貴・館林洗介・長坂公靖・金津佑介・萱垣義樹)

2 名大 A 3.26.34 5 愛教大 3.33.08

3 中京大 A 3.26.55 6 静岡大 3.33.32

4 皇學館大 3.28.40

### 第5回東海学生女子駅伝対校選手権大会

2011年12月4日(日) コース：知多半島半周 5区間

女子成績

1 名城大 A 1.27.11

(亀山絵未・高畑 綾・高木綾女・池田絵里香・八木絵里)

2 中京大 1.33.32 5 東海学大 1.39.30

3 愛教大 1.34.43 6 名大 1.42.57

4 至学館大 1.34.54

**第64回渥美半島駅伝競走大会**

2011年12月18日(日) 伊良湖岬—豊橋技術科学大学前

一般男子

- 1 中京大学 A 2.12.51  
(山口泰輝・芝田 遼・林 佑樹・松田和真・橋本一樹)
- 2 トヨタスポーツマンクラブ A 2.14.47
- 3 TPAC A 2.14.55
- 4 三菱自動車岡崎 2.15.35
- 5 中京大学 B 2.16.32
- 6 TPAC B 2.17.34

高校男子(本県分のみ)

- 1 豊川高 B 2.11.55 大会新  
(鈴木悠日・カレミ ズク・彦坂一成・皆浦 巧・安藤祐輝)
- 2 中京大中京高 A 2.13.38
- 3 愛知高 A 2.14.32
- 4 豊川高 A 2.16.02
- 6 惟信高 A 2.17.24

一般女子(本県分のみ)

- 1 中京大中京高 A 1.03.41  
(田磨妙如・高橋季香・堀 舞花・西川かりん・清田真央)
- 2 千種高 1.05.58
- 4 岡崎城西高 A 1.08.10
- 5 愛知高 1.08.36
- 6 至学館大 A 1.09.00

**第19回全国中学校駅伝大会**

2011年12月18日(日)  
山口県セミナーパーク・クロスカントリーコース  
男子の部(18km) 女子の部(12km)

男子成績(本県分のみ)

- 第8位 石巻 57.50  
(森 敬喜・稲垣竜弥・平野誉之・深澤 心・岩本綾平・小柳津恭志)

女子成績(本県分のみ)

- 第35位 祖父江 43.26  
(吉川真希・木村由佳・太田智代・近藤莉奈・瀬戸口佑香)

**第43回新春愛知ロードレース・競歩競技会**

平成24年1月3日(火) 庄内緑地公園周回コース

成績(太字は愛知登録)

一般男子 10km 競歩

- 1 **大坪 鷹人** (名古屋 AC) 46.58
- 2 大森 健一 (クスリのアオキ (石川)) 47.43
- 3 大森 凌 (小松短期大 (石川)) 52.26
- 4 中尾 圭 (愛知陸協) 1.01.39

高校男子 10km 競歩

- 1 東 拓矢 (桑名工) (三重) 47.04
- 2 田坂 剛志 (三好) 48.23
- 3 岡田 健太 (桑名工) (三重) 48.28
- 4 三浦 翔史 (愛三大三河) 49.24
- 5 加藤 翼 (弥富) 49.44
- 6 井口 僚太 (弥富) 51.28

一般高校女子 5km 競歩

- 1 村上 瑠菜 (惟信高) 26.53
- 2 橋本 記江 (一宮西高) 27.00
- 3 高山 奈々 (トヨタ自動車) 27.09
- 4 中村 仁美 (一宮西高) 27.13
- 5 伊藤 千草 (津島北高) 28.00
- 6 安藤 依純 (一宮西高) 28.08

**皇后盃第30回全国都道府県対抗女子駅伝**

2012年1月15日(日) 京都西京極陸上競技場発着

総合 愛知 6位 2.18.10

区間(距離)	選手	所属	時間	区間成績	通過順位
第1区 6km	鈴木亜由子	名古屋大	19.23	4位	4位
第2区 4km	安藤 友香	豊川高	12.26	1位	1位
第3区 3km	鷺見 梓沙	杏掛中	09.35	6位	2位
第4区 4km	清田 真央	中京大中京高	13.11	9位	2位
第5区 4.1075km	西川かりん	中京大中京高	13.42	18位	3位
第6区 4.0875km	山元 美駒	積水化学	13.08	3位	3位
第7区 4km	北本可奈子	千種高	13.10	12位	3位
第8区 3km	山田日菜野	みよし北中	10.09	5位	4位
第9区 10km	加藤 麻美	パナソニック	33.26	16位	6位

**天皇盃第17回全国都道府県対抗男子駅伝**

平成24年1月22日(日) 広島市平和記念公園前発着

総合 愛知 5位 2.20.54

区間(距離)	選手	所属	時間	区間成績	通過順位
第1区 7km	小山 裕太	豊川工高	20.42	17位	17位
第2区 3km	飯島 康介	西浦中	8.44	5位	9位
第3区 8.5km	三田 祐介	早稲田大	24.19	3位	2位
第4区 5km	安藤 悠哉	豊川工高	14.46	10位	3位
第5区 8.5km	神野 大地	中京大中京高	24.52	4位	22位
第6区 3km	野津 亮祐	青陵中	8.58	16位	1位
第7区 13km	伊藤 祐哉	トヨタ自動車	38.33	12位	5位

**第65回名岐駅伝**

2012年2月5日(日)

成績(太字は愛知登録)

男子一般の部

- 1 **トヨタ自動車** 2.30.45 大会新  
(大石港与・松本賢太・伊藤祐哉・ジェームス ルンガル・外丸和輝・宮脇千博)
- 2 **トヨタ紡織** 2.31.58 大会新
- 3 **スズキ浜松 AC** 2.32.34
- 4 **愛知製鋼** 2.33.55
- 5 **NTN** 2.34.45

男子高校の部

- 1 **豊川工** 2.00.06  
(小山裕太・奥野翔弥・石黒大介・湯田晟旭・安藤悠哉・成瀬雅俊)
- 2 伊賀白鳳 2.00.31
- 3 佐久長聖 2.01.22
- 4 **愛知** 2.02.26
- 5 中京 2.02.57

## 第34回読売犬山ハーフマラソン

2012年2月26日(日) 公認犬山ハーフマラソンコース

大会成績結果(太字は愛知登録)

登録ハーフ男子

1	中村 匠吾(駒澤大)	1.03.26
2	後藤田健介(駒澤大)	1.03.49
3	山下 洸(NTN)	1.03.54
4	阿部 哲史(トーエネック)	1.04.04
5	淀川 弦太(東洋大)	1.04.07
6	湯地 俊介(駒澤大)	1.04.18

登録ハーフ女子

1	杉原 加代(デンソー)	1.11.59
2	林 敬熙(SH公社)	1.12.51
3	空山真由美(小島プレス)	1.15.31
4	山崎 祐佳(小島プレス)	1.15.41
5	馬場麻美子(小島プレス)	1.17.45
6	鈴木 沙季(岐阜大)	1.17.51

登録10km男子

1	白柳 智也(トヨタ紡織)	29.58
2	林 辰也(惟信高)	30.00
3	山本 芳弘(トヨタ紡織)	30.09
4	竹内 大地(中京大中京高)	30.20
5	林 星夜(トヨタ紡織)	30.38
6	柴田 尚輝(トヨタ紡織)	30.44

登録10km女子

1	伊藤 舞(大塚製薬)	34.08
2	西川かりん(中京大中京高)	34.22
3	山本 陽菜(愛知電機)	34.24
4	小田切綾乃(愛知電機)	34.32
5	仲間 千華(愛知電機)	34.48
6	山口紗也加(愛知電機)	35.00

## 第22回西田修平・高橋公一記念 国際室内棒高跳競技大会

平成24年3月4日(土)・5日(日) 中京大学豊田学舎大体育館

成績(太字は愛知登録)

国際男子

1	澤野 大地(千葉・日本)	5.53
2	ジョーダン・スコット(アメリカ)	5.33
3	永田 純也(神奈川・横浜陸協)	5.33

国際女子

1	崔 倫嬉(韓国)	4.22
2	我孫子智美(滋賀・日本)	4.22
3	竜田 夏苗(大阪・武庫川女子大)	3.92

男子選抜

1	山本 智貴(広島・日本体育大)	5.10
2	近藤 清貴(愛知・中京大)	5.00
3	松澤ジアン成治(長野・中京大)	4.90

女子選抜

1	梁井 早希(埼玉・日本体育大)	3.60
2	生井 ちま(栃木・日本体育大)	3.50
3	中田 彩奈(神奈川・日本体育大)	3.40

## 名古屋ウィメンズマラソン 平成24年3月11日(日) ナゴヤドーム発着

1	アルビナ・マヨロワ(ロシア)	2.23.52
2	尾崎 好美(第一生命)	2.24.14
3	中里 麗美(ダイハツ)	2.24.28
4	渋井 陽子(三井住友海上)	2.25.02
5	伊藤 舞(大塚製薬)	2.25.26
6	野口みずき(シスメックス)	2.25.33
7	オレーナ・シュルクノ(ウクライナ)	2.25.49
8	赤羽有紀子(ホクレン)	2.26.08

## 名古屋シティマラソン 平成24年3月11日(日) ナゴヤドーム発

ハーフ男子	1	今木 一充	1.09.53
	2	吹切 洋平	1.10.32
10km男子	1	森 育生	32.47
	2	森下 香月	33.39
ハーフ女子	1	仲間 千華	1.18.44
	2	伊藤 理絵	1.27.12
10km女子	1	木富 淑絵	38.31
	2	高橋 佑子	38.51

## 理事会等会議報告

○常務理事会 24年1月11日(水) 18時30分 教育会館

1 協議事項

- ①日本陸連栄章候補者について
- ②公認審判員の昇格候補者について
- ③平成24年度の競技会等の日程について(追加・変更)
- ④その他

2 報告事項

- ①各専門委員会からの報告
- ②その他

○臨時評議員会 24年1月12日(木) 18時30分 教育会館

1 議案協議

- ①法人化について
- ②その他

2 報告事項

- ①平成24年度競技会等の日程について
- ②その他

(稲垣 裕)

## お く や み

長年本県の陸上競技発展のため多大なるご尽力をいただきまして、ありがとうございました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

逝去者氏名	逝去年月	支部名
高木 景	23・12	名古屋

## 編 集 後 記

◆今年度委員が半数入れかわったものの、皆様のご協力で何とか発行できました。寄稿いただいた皆様に深く感謝申し上げます。◆今号から、渥美半島駅伝も連載します。ご要望は、1頁の陸協事務所へお寄せください。

## 編 集 委 員

占部 輝之	大西 敏功	小坂 拓	榊原 英司
外山みな子	新見 精三	西垣 完彦	野口 一昭
横田小百合			